

森田 啓之 さん

昭和61年3月卒業 / 大学教員



森田先生は兵庫教育大 学部第1期生なんですよ。今から39年前になりますが、その当時はどんな様子でしたか？

当時の兵庫教育大学は、「教員養成に関する新構想大学」という程度の情報しかなく、海のものとも山のものとも分からない大学だったと思います。そこに興味・関心を持って我々はたまたま集まったわけですが、「新しく大学を自分たちで作っていく」同士という感じはあったと思います。ですから、個性的、あくが強い、思想的に敏感な人、さらにはやたら日本酒に詳しいやつなど、いろんなタイプの間がいて、そんな中でよく「学生生活についての大学の対応」や「教師のあり方」などについて議論し合ったのを懐かしく思い出します。
私は愛媛県出身で教育に対してはあまり

深く疑問を抱くことなく（例えば、国歌や日の丸など）育って兵庫に来たので、様々なことに主体的に疑問を持つ人たちに刺激をもらった日々でした。

学部第1期生ということもあって、開学時はいろいろな制度がなく、いい意味で互いに、そして大学ともぶつかり合いとせめぎ合いが多く、規則・ルールをみんなで考えることができました。今にして思えば、そういう場に居られたのは幸せだったと思います。

その当時の学生と比べて、今の学生について感じることってどんなことですか？

最近のうちの学生は・・・、とてもスマートだと感じます。みんないい子で、そつがない、とげとげしくも

ない。その意味では、大人的にはやりやすいと感じます。これはきっと時代の流れが影響していると思いますが、私が学生だった頃とは大きく違いますね。いろんなことが整っている現状ですが、今の学生には、平均的な刺激のない現状に満足しないで、「自分の経験値を高めて欲しい」です。その1つが『社会経験』だと思います。学生時代の課外活動は社会に出たときに大きく左右します。それはクラブ活動でもボランティア活動でもいいです。自分なりの考えやビジョンを持って取り組むということを意識してみてください。

“大学”で学ぶことの大きな意味は、強制されない「自由」という権利を大いに満喫する中で、**自分で生活をデザインすること**だと思います。自分の良さを伸ばす場を自分でつくることを大事にして下さい。

森田先生が大学の先生になろうと思ったきっかけは？

現職の院生さんとの出会いが大きかったです。クラブをふらっと見に来てくれたのが縁でした。修論の手伝いをする中で、教育現場のことについてたくさん勉強になりました。ゼミもその先生の勧めで選択したのですが、学部4年生になった時にゼミ

の先生から「大学院で勉強する気ある？筑波の試験を受けてみる？」と筑波大学の先生を勧めてくれたことがきっかけです。さらに、ゼミを勧めてくれたその院生さんから「自分には行けないけど、森田くんはそのチャンスがあるから、是非チャレンジしてみたい」と背中を押してもらいました。

この小さな大学でできることには限りがあるからこそ、偶然が生み出す“縁”をきっかけにして広げていくことが大事ではないかなと。人とのつながりからくる“縁”と“タイミング”のおかげで今の私があると思っています。

最後の質問です。社会の現場に出ることで大事なことは何だと思いますか？

社会に出れば、スムーズにいかないのが当たり前です。その中で遅く生きていくには『**可愛げ（かわいげ）のある人間**』になって欲しいと思います。素直で可愛げのある人間はどこに行っても伸びていくし、関わってくれる・助けてくれる人が出てきます。

まず、学生時代に「可愛げって何なの？」という問いの答えを試行錯誤して見つけて下さい！！